

自 彊 会 だ よ り

変
わ
ら
ぬ
伝
統
と
文
化

今
も

第26号



いまでも心のどこかにある、
「特別な場所」で過ごした「特別な時間」。



1960年～1980年代 中部講堂前正門

写真撮影 北村写真室

創立95周年 飛翔を誓う！



同窓会会長 竹内 信しん 六ろく (高13回)

母校の創立95年を迎え、更なる発展を願い、最初に「飛翔」を誓いました。100年がすぐそこに近づいていますので、95年の特別行事は行わず、100周年に向け力を蓄えたいと考えています。皆さまのご理解とご協力なくしては立派な100周年事業は実現できません。今後とも一層のお力添えを願う次第です。

ところで、同窓会や母校を取り巻く現状に目を向けますと、現実の厳しさに愕然とする思いがいたします。同窓会の活動を支えていただいた大先輩が次々に他界され、物心両面で大きな痛手となっております。諸先輩方に代わり、明高の10回生代、20回生代が中心となって100周年に取り組まねばならないと身の引き締まる思いがいたしてまいります。又、母校、明石高校も教育制度改革の中で、「順風より逆風に曝されている」という印象が強くなりました。総合選抜制度が終り、明高へ行

きたい生徒が多数入学できるようなりました。この機会に「一層の飛躍を」と願ったのも束の間、学区の再編で有為な人材が明石地区から加古川地区に流出する現実が起こっています。制度改革は、明石地区のリーダー校への回帰を目指す母校にとって、ため息の出るような状況を生み出しています。

しかし、嘆いていても始まりません。校長先生はじめ諸先生方のお力添えで、「兵庫に明高あり！」を実現したいと思っています。明石の町では明高の制服は評判が良いと聞いています。中学生が憧れる制服を綺麗に着こなし、充実した高校生活を送る明高生が多くなること、これこそ明高の「飛翔」の一歩と考えます。会員の皆さま、同窓会の発展・母校への支援には、当然ですが資金が必要となります。会費だけが収入源です。皆様のご理解とご協力を心からお願ひ致します。

もくじ

会長あいさつ	1
ひととき	2
2018年度総会・懇親会案内	3
100周年記念行事	4
学年同窓会交歓	9
支部だより	11
自彊不息	13
部活動同窓会	15
明中・明高ゴルフ会	16
13回生関東同窓会	17
同窓会入会	18
人事異動	19
進路状況	20
合格者の声	21
自彊セミナー報告	22
部活動報告	23
部活成績・記録	24
おくやみ・同窓会役員	25
同窓会開催のお知らせ	26
事務局より	27
決算報告・事業報告	28
会費納入のお願い	28
編集後記	28

ひととき

詩人、川崎洋さんの『ひととき詩をどうぞ』という本の中に、屋久島の縄文杉に会いに行った時のことを記した文がある。縄文杉を発見したのは岩川貞次さんという人だが、この方から伺った話がかかれていた。

樹齢千年以上のものでしょうか。屋久杉とよばず、その屋久杉を切るときは、きちんとしきたりがある。そのしきたりに従って五尺鋸で木の両側から挽いていき、倒れたらその瞬間に用意しておいた木の枝の先を根もとの杉の皮と身との間に刺し立て、「この木のほれエツ」と言うのだ。そうさ。この杉の木の魂の行き道をこしらえる行事さ。そうさ。

さらに岩川さんはおっしゃった。「朝顔の種をまいて50m離れたところに棒を立ててごらん。芽はそちらへ這っていきじゃないか。1年草さえさ。まして、千年世を過ごしてきたものに魂がなくてどうするか。」と。この話、わたしは胸にずしんとこたえました。というのが川崎さんの言葉だ。

私が読んだのは今から25年くらい前のことだ。この文章を読んでから「私も会いに行きたい」と思っていた。実現したのは去年の5月だ。縄文杉を始めとする屋久島の自然を守るために、杉の木に直接触れることはできなくなっていたが、青空、杉の枝葉の緑、七千二百年の間少しづつ大きくなっていった幹、その木が醸し出す空気が、胸が熱くなった。私は、22kmを11時間かけて歩いて、縄文杉に会えたことを本当によかったと思っている。縄文杉の魂に出会えたのだ。（幸）

雨にも負けず

第24代校長

蔭 木 原 洋



自彊会の皆様に
おかれましては、
ますますご健勝に
ますご健勝に

お過ぎのこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育活動に対し多大なご支援・ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

「たゆたえど 沈まず」これは、明高美術科が毎年研修旅行に訪れているパリの標語です。「揺れはするが、沈没はしない」という意味です。パリの街は人間の一生と同じく、山あり谷ありの歴史でした。第二次世界大戦中はナチスドイツの占領下にあったこともあります。しかしながらパリはいつも不死鳥のように蘇り、今日でも「花の都パリ」「芸術の都パリ」として、世界中の人々から一度は行ってみたい街として注目を浴び続けています。そんなパリと同じく九十五年の明高の歴史にもいろんな事がありました。今、明石高校は百周年に向けて「明石の盟主」「天下の明高」として復活すべく着実な教育活動を行っております。昨年一年間、私は明高生に三つのことを呼びかけてきました。一つ目は愛校心を持ってほしいということでした。二つ

目の呼びかけが人的財産を手に入れてほしいということでした。三つ目はこの明石高校で、一所懸命勉強してほしいということでした。

この三つは、明高生が自彊が丘を巣立っていても実行して欲しいことです。進学先の学校を愛して、その学校の生徒であることを誇りにする。就職した先の職場を愛する精神を持つ。そしてそこで出会いし人々を自分の「人的財産」として大切にすること。その場所が自分の天命の居場所だと信じて「一所懸命」勉強し働く。そして三万二千四百二十名の自彊会の皆様に続いて「偉い人」になって欲しいです。私の言う「偉い人」というのは、必ずしも立身出世主義的な「偉い人」ではなく、人間としての生き方の偉さです。

明高の教職員には、「教師」というものは生徒を言葉や技術で導くのではなくて、校長の私を含めて、先生方の徳(人間性)が、接する明高生の手本になってほしい。」と話してきました。また、「教師の先生は生徒である。自分の教える相手から、自分も教えを受けようとする気持ちがないと馬鹿になる。」というようにも話してきました。そして、明高の教職員自らが「自彊不息」を実行していく

ことが、明高百周年に向けての精神的根本だと思っています。最後にいつも卒業式の式辞で読む宮沢賢治の「雨にも負けず」を紹介させていただきます。ただいご挨拶とさせていただきます。

〔雨ニモマケズ〕

宮沢賢治

雨ニモマケズ
風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
丈夫ナカラダヲモチ
慾ハナク
決シテ驥ラズ
イツモシヅカニワラツテキル
一日ニ玄米四合ト
味噌ト少シノ野菜ヲタベ
アラユルコトヲ
ジブンヲカンヂヤウニ入レズニ
ヨクミキシワカリ
ソシテワスレズ
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
小サナ萱ブキノ小屋ニキテ
東ニ病氣ノコドモアレバ
行ツテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ツテソノ桶ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ
行ツテコハガラナクテモイ、トイヒ
北ニケンクワヤソシヨウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ
ヒデリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ
ミンナニデクノボートヨバレ
ホメラレモセズ
クニモサレズ
サウイフモノニ
ワタシハナリタイ

2018年度総会のご案内

左記にありますように、定例総会を開催いたします。多数ご出席頂き、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

記

- 一、期日 2018年6月23日(土)
- 二、時間 午後4時(受付は3時30分より)
- 三、場所 グリーンヒルホテル明石2階
- 四、次第 ①会長あいさつ ②議案審議 ③質疑応答 ④その他

懇親会のご案内

総会後、二年に一度の懇親会を開催いたします。ご友人を誘っていただき、お気軽にご参加下さい。懇親会の中で高校1・2回生の皆様にお集まりいただき、「米寿を祝う会」を予定しております。

記

- 一、期日 2018年6月23日(土)
- 二、時間 午後5時(受付は4時30分より)
- 三、場所 グリーンヒルホテル明石2階
- 四、会費 5000円
- 五、申込 ファックスのみの受付となります。住所、氏名、回生を記入して、送付して下さい。会費は、当日受付にてお支払い下さい。FAX番号は078・913・6554です。

学校創立100周年『準備会』発足

100周年準備会

会報第25号でもお知らせしましたように

同窓会が主体となり、準備会を発足させました。

将来的には、学校、PTA、教育振興会、同窓会が一体となった実行委員会が組織され、本格的な準備が行われます。実行委員会が円滑に機能するための準備と捉えていただければ、と思います。

当面は、充実した「百年史」を編纂する準備、母校の歴史を語る資料収集を行うことに主眼を置き、活動してまいります。

会員の皆さまのご理解とご支援をお願い致します。

準備会委員

- 代表 竹内 信六 (高13回)
- 委員 蔭木 原洋 (校長)
- 嘉藤 弘之 (高15回)
- 伊川美智子 (高16回)
- 佐々木卓郎 (高18回)
- 吉田 眞司 (高21回)

「百年史」編纂委員会

昨年度は、編纂委員会を4回行いました。他校の記念誌なども参考にしながら、様々な観点から検討し、充実した、読み易いものを創りたいと委員一同、知恵を出し合っています。

まだ全体のページ数をどの程度にするか、構成をどのようにするか、という段階ですが、完成までのスケジュールもほぼ決まっています。

母校を支えるPTAや教育振興会、同窓会などの活動もまともだと考えています。又、明中、明高の思い出を語っていただく座談会も企画しようという意見もあります。

限られたページ数ですが、充実したものが完成できるように創意工夫し、準備を進めてまいります。

編集委員

- 代表 佐々木卓郎 (高18回)
- 委員 木村 健治 (教頭)
- 木下 淳一 (旧職員)
- 佐伯 敏裕 (高24回)
- 鷺森 智美 (高38回)

「資料館」整備委員会

卒業アルバムをすべて揃えたいと考え、ご協力をお願いしましたところ、寄贈の申し出があり、かなり揃ってまいりました。ありがとうございます。又、生徒手帳などの身の回りの品物の寄贈も受け取ります。

明中時代のものは無理かもしれませ

お願い

準備会代表 竹内 信六

百周年まで、あと5年となりました。

「まだ5年も先」と感じられる方も多いと思いますが、「百年史」は1年前にはほぼ完成という状態にする必要があります。また、資料館の整備も時間をかけて資料収集を行わねばなりません。残り5年は長いようで短い期間と考えています。

兵庫県下で、旧制中学以来の伝統校と呼ばれる学校が次々と百周年事業を催されています。明中・明高も他校と比べ遜色のないものを行いたいものです。「百年史」はその根幹となるものです。充実した記念誌をつくるため、更に皆様のご理解とご協力をお願いします。

卒業アルバム、昨年ご寄贈いただき徐々に揃ってまいりました。記念誌づくり、資料館の充実のため、明中・明高に関する品物、例えば学級文集、愛唱歌集、制服・制帽、部活動の賞状やユニホームなど、お持ちの物がございましたら寄贈をお願いします。

寄贈に当たり、送料などが発生すると思われまますので、詳しくは同窓会事務局又は明石高校へご連絡をお願いします。

同窓会事務局(078・9113・6554)事務局は常駐ではありませんので、不在時は明石高校事務局

(078・911・4376)



整備委員

- 代表 吉田 眞司 (高21回)
- 委員 原田 浩一 (事務長)
- 丹野 孝広 (現職員)
- 山中 良秀 (現職員)

が、明高の制服は揃えたいと思います。明高の制服は、3度変わっています。高校45年生までが着用した制服、高校57年生までの紺のブレザー、そして現在のものです。お持ちの方がございましたらご寄贈をお願いします。

先日、昭和9年に完成した作業館に掲げられていた「作業精神」と題する山内佐太郎校長の額が見つかり、資料館に納められました(左の写真)。

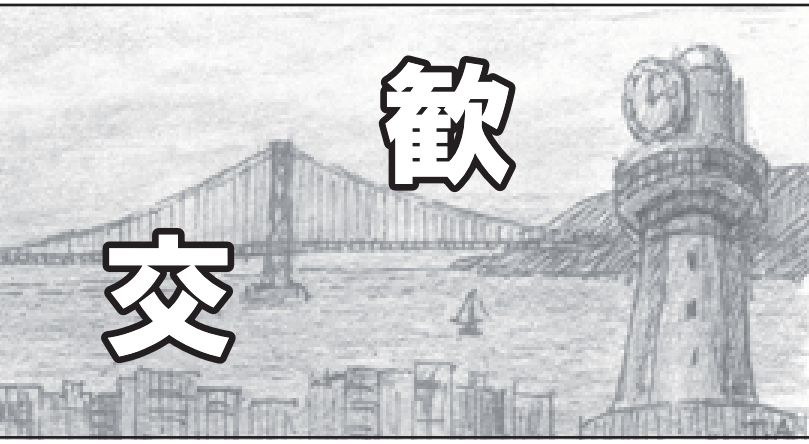
少しづつではありますが、整ってきました。今後とも、ご協力をお願いします。

第9回明高会
(明石高校旧職員の会)

山本茂之

平成30年3月4日(日)、グリーンヒルホテル明石において、第9回明高会(旧職員の会)が開催され、36名が集い旧交を温めました。

冒頭に旧職員物故者追悼の黙祷を行った後、世話人代表の村本武彦先生のご挨拶で開会。続いて、ご来賓の蔭木原洋校長から祝辞と明高の近況報告をいただきました。特色類型の理念や美術科の取り



イラスト・安藤 勉 (中18回)

組み、進学実績や部活動の活躍等、我が明高の活躍に参加者一同、歓びの声をあげ、今後の一層の飛躍を祈念しました。

その後、谷内豊先生のご発声による乾杯で始まった歓談の時間では、かつての勤務時の出来事を、つい先日のことのように感じつつ、思い出話に花を咲かせました。

祝宴も終盤、柴原秀樹先生の挨拶の後、全員で校歌を熱唱。中島寛先生のエールを受けながら今も明高校歌は旧職員の応援歌であると痛感した次第です。大変和やかに過ごした時間もあっという間に過ぎ、別れを惜しみつつ2年後の再会を誓い合いました。



高校三回

桃尾行男

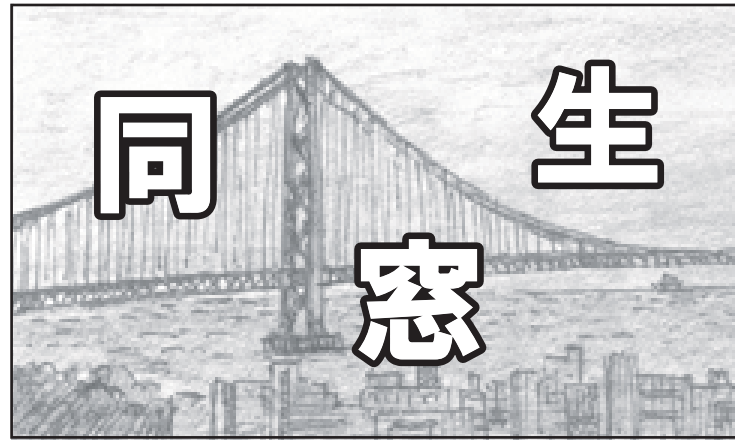
我々3回生も85歳、これを最後の同窓会として呼びかけを行い、10月28日、グリーンヒルホテル明石にて同窓会を開催しました。

当初35名の参加を予定していましたが、台風20号の襲来で開催を一週間順延する羽目になり、その間体調の変化や不都合で参加取消が多くやや淋しい開催となりました。それでも竹内会長の「カラオケ歌うよ」とのお声かけも有り予定にないカラオケに原田事務長や女性軍を中心に大盛り上がりで台風21号の迫り来る中で有意義な思い出深い同窓会となりました。

3年前の平成26年10月の同窓会を最後にすると決めていましたが今年になり、もう一度開催を求める声が多く寄せられ急遽開催しました。卒業後来年が70年、未だ半数近くが生存する元気な85歳。

高齢化で同級生の音信も少なくなる中、今回は生存者の近況を多く集め、欠席者へも送付し絆を強め合うことにしました。今後は日時・場所を決めておき毎年予告なく自由参加の方式で集う予定です。





高校十三回

井上 昌俊

昨年10月2日に、13回生同窓会を明石城お堀端のグリーンヒルホテル明石で開催しました。昔懐かしい仲間75名が集い大変盛り上がりました。今回の幹事役は衣川中出身の有志10名が担当しました。

2年ぶりの同窓生との再会を楽しみ、加えて新装なった明石駅周辺の景観を観て欲しい、というコンセプトを目指しました。

全員の集合写真撮影の後、高松陽介君の司会で始まり、逝去された同期生に黙祷。美味しいバイキングを食べながら、遠方からの出席者の挨拶や、自彊会会長



の竹内信六君から明高の現状報告があり、余興は賞品付きのビンゴゲームを楽しみました。

最後に校歌・応援歌を全員で斉唱して、次回の参集を約束して散会しました。

なお、今回も同窓会開催についての事務全般を(株)サラトに委託しましたが、大変良くやってくれました。また幹事役としてお世話頂いた衣川中出身の有志の皆さん、ありがとうございました。



古希同窓会

高校十八回

折戸 善信

10月15日、神戸メリケンパークオリエンタルホテルにおいて120名の参加者で古希の同窓会を開催した。

いっしょに団塊の世代と呼ばれるようになった私たちですが、振り返ってみると、小学校から高校・大学まで教室の後ろまで詰め込まれて育ってきた。その後、大学紛争を経験したり、日本の高度成長を支える企業戦士として世界中で活躍した者も多かった。

各人の人生を語ればきつと切りがないぐらい、いろいろなことがあったと思う。しかし、すでに大半のものが一線から退き、ようやく衣や鎧を着ることなく、純粹に高校時代に戻り、真の仲間として集い語り合える同窓会になったのではないかと思われた。

特に、後半の2次会ではルミナス神戸2に乗船したが、小雨が降り続いていたこともあり、デッキに出ることなく、あちらこちらでテーブルを囲み、今回参加できていない仲間のことや、高校時代の淡い思い出など気どることなく話が弾ん



でいた。

多くの仲間が長生きをして、これからも開催する予定の同窓会に参加してほしいと願い、会を終了した。





還暦記念

高校二十八回

森本 克茂

日時：平成29年11月4日15時より開宴
場所：ホテルキャッスルプラザ（西明石）
28回生は還暦を迎えました。2年前2年間母校で勤務させていただいた縁で名ばかりの代表幹事を務めさせていただきました。10名の世話役に加え、当日受付をお願いした方々、そしてプロとは言え当日打合せのみで完璧に司会をしていたいただいた豊永さん等のおかげで大盛会となりました。予想以上の172名の参加で記念写真は2回に分けての撮影となりました。

3年生男子クラスだったあの幹事の悲壮な訴えにより



テーブルにつく席は高校2年時クラスごととしました。歓談の後、ご出席いただいた恩師の先生方（山本先生、柴原先生、庄先生、安田先生）から心温まるスピーチ、新しく第2の人生に船出する私たちを励ますエールを送っていただきました。最後は旧応援団長の貝野君の音頭での三七拍子、中部講堂での現役明高生の元気な式典での校歌斉唱や昔と変わらない3年生全クラスによる明高祭での演劇発表等の今の明高の紹介の後、以前母校で

卒業40周年記念

高校三十回

岡 浩平

音楽教師として教壇に立った山本君の指揮で校歌を「集え」から「誓え」までの3番まで28回生過去最高の心の底からの大合唱で幕を閉じました。駅前の居酒屋での2次会も大幅に予想を超える130名の参加となり、皆様に感謝、感謝の還暦同窓会でした。ありがとうございます。

平成29年8月12日に、高校30回生の第3回学年同窓会をホテルキャッスルプラザ（西明石）にて開催いたしました。第1回は50歳を迎える平成21年に開催、以降5年毎に開催予定でしたが、今回は、第1回同窓会の後、ほぼ毎月顔を合わせているゴルフメンバーが中心となり、卒業40周年の記念に、急遽開催する運びとなりました。次回開催は還暦のお祝いを兼ねた2020年を予定しています。

出席人数は、36名と前回・前々回に比べて少人数ではありましたが、遠方からの参加者や初参加の方々とも近況を語りながら旧交を温め盛況に開催されました。また、30回生の為のホームページも



立ち上げましたので掲示板での近況報告やメッセージをたくさん頂きました。今後もこのホームページはずっと使えますので、掲示板への書き込みや写真の投稿をお願いいたします。遠方からわざわざ参加された方々、また今回初参加の方々、そして福本会長はじめご協力頂いた幹事の皆様、ほんとうにありがとうございます。次回の還暦記念開催では、より多くの皆様と元氣にお会いできることを楽しみにしております。

高校三十三回

長野雅三



私達33回生は、平成29年9月16日(土)明石駅前のレストランヒルホテル明石にて第3回目となる同窓会を開催しました。第20代校長の尾崎校長先生をはじめ4名の先生方をお迎えし、107名の同窓生(総勢11名)と賑やかで懐かしい時間を過ごしました。

55歳の同窓会は懐かしさに加え、健康に関しての話題で持ちきりでした。その他イベントでは、『明石高校の今と昔』と題し、今の制服を着こなし?ながら新旧の校舎などを写真で紹介。また1970~1980年代歌謡曲のイントロクイズで盛りあげられました。

今回は60歳開催か、それまでに開催するかについては、新幹事に引継がれ楽しいひと時は無事に終了しました。本同窓会の開催につきましては、自彊会からの補助により支えられましたことを心より感謝しています。33回生を代表し御礼申し上げます。

高校三十八回

黒木明弘

向春の風薫る3月10日、明石人丸花壇にて高38回生の同窓会が開催されました。当日は恩師徳田先生、小南先生のご出席を賜り、全国各地より集いし91名の同窓生も共に歓談の時を過ごすことができました。

学年の同窓会としては2度目、17年ぶ

りでしたが、卒業後初めて顔を会わす同窓生もおり、当時の面影と大きく?変貌した面前の校友をおぼろげな記憶と名札を頼りに探るように話しかける姿もあちこちに見られました。

しかし瞬く間に、海を臨む自彊ヶ丘の学び舎で共に学び語らった時が蘇ったのか、30余年の時空を一気に飛び越え、弾けるような笑顔で往時のあだ名を互いに呼び合う談笑の輪が会場すべてに広がりました。

明石屈指の料亭の御馳走と美酒を堪能しながらの宴はまことに素晴らしい時間でしたが、長年の空白を埋めるにはいささか短かったのか、その後二次会、三次会と深夜まで杯を重ねながら久闊を叙した同窓生も少なくなかったと聞き及びます。思えば昨年5月に最初の発起人会を開いた際は、200名を超える現住所不明者と準備期間の短さに発起人全てがその成功を不安視するような状態でした。

そのような中、自彊会ならびに株式会社サラト様から様々なご支援をいただき準備を進めることができました。また、出席者数が伸び悩む中、多くの同窓生が周りの同窓生に声掛けし、作業を手伝ってくれました。

これら皆様方の温かいお力添えが無ければ今回の同窓会開催は困難でした。発起人一同より、この場をお借りし厚く御礼を申し上げます。

「集まろう 祝 半世紀!!」を合言葉に始まった50歳の同窓会は終わりましたが、次回の学年同窓会は還暦記念、六十

歳の開催と聞いております。願わくはその時まで、恩師の皆様、同窓生が健やかに過ごされ、今回出席の方々は無論、今回出席が叶わなかった方々も集う、盛大な38回生同窓会になることを心より祈念しております。



68回生 成人記念同窓会

松村 みなみ

3月21日、母校講堂にて成人の集いが催されました。17年度に成人となった卒業生が多数集まり、楽しいひとときを過ごしました。開会の直後、卒業生に深く関わりのある先生方からお一人ずつ挨拶をいただきました。卒業から2年、少しだけ大人に近づき、世の中の姿を学びつつある卒業生にとって、恩師の言葉・仲間との交流は明日への力強い応援となったことでしょう。会の中盤ではミニゲームが行われ、じゃんけんに勝ち続けた3名が見事景品を獲得。うち2名が体育系の朗らかな先生だったこともあり、大笑いのうちにゲームは終了しました。閉会后、恩師と卒業生の会話は熱を上げ、講堂の人海はなかなか減る気配を見せませんでした。その日朝から降り続いていた雨も昼には上がり、春の兆しを感じながら各々帰路につきました。また再会できる日を楽しみにしています。



支部だより

関東支部

野呂 良久(高14回)

定例総会開催

2017年11月11日、前回と同様恵比寿ガーデンプレイスにあるビアステーションにて定例の総会・懇親会が、自彊会本部から竹内会長と草川前会長および美術科支部会長の鷲森さん、高校から藤本教頭をお迎えして開催しました。

今回は美術科支部挙げての協力が得られ、神戸を拠点に創作活動をされているプーヤ健クリストファー氏と、東京・谷中に「阿随金属工房」を構えて活動されている阿随秀昨氏が会場にご自身の作品を展示して頂き、作品の説明も。

更に、東京芸大、多摩美大、武蔵野美術大、日大芸術学部にて在籍する美大生を初の試みとして招待したところ、13名の出席を得て、6つのテーブルに分散して着席して頂き、過去の懇親会ではなかつ

た和みの雰囲気溢れた懇親会となり、更には、美大生を応援するビジネス支援の話が先輩達から提案されるなど極めて有意義な懇親会でした。

次回は、2年後に開催する予定ですが、詳細は未定です。詳細が決次第連絡を差し上げますので、多くの会員の皆様のご出席を期待しています。



美術科支部

鷺森 智美 (高38回)



資料館にて

平成29年6月25日(日)、明石高校資料館において、「第11回同窓会美術科支部総会」を開催いたしました。若い世代の幹事をはじめ、遠方より集まって下さった皆さま、本当にありがとうございました。久しぶりに母校の門をくぐり美術科棟での懐かしい思い出話に皆さんとの会話が弾みすぎ、議事の進行も途中脱線しながらではありましたが、笑いの絶えない楽しい会となりました。

総会後は、恒例となりました「新幹事歓迎会&懇親会」を明石駅近くのお店に場所を移し、仕事等で総会には参加できなかった役員も参加してください、世代

をこえた交流も大いに盛り上がり(笑) 楽しく深める事ができ、意欲的に活動にも協力してくれる若い世代が頼もしく、新しい事業への活力に繋がると、心強く感じました。

活動事業の報告ですが、今年度は特集として、地域におけるアートイベントに携わった美術科同窓生の皆さんが、それぞれに経験された企画の魅力や運営の難しさをうかがった内容なども掲載された美術科支部会報紙「美術科画報第12号」を発行いたしました。

多忙の中、原稿の依頼を快く受けて頂いた方々をはじめ、画報の編集作成などいつも全力で尽くしてくる会報担当兼副会長の谷本研君(高44回)には、心から感謝の気持ちでいっぱいになります。本当にありがとうございます。

今回からは、画報発送方法が変わり、支部から発送するのは海外在住者等のみになり、基本、美術科支部の会員には、同窓会が発行する会報誌「自彊会だより」に同封し、発送させて頂いています。ですので、大学進学や就職などで住所が変わり、届け先を変更される方は、明石高校同窓会事務局(通常FAXが確実)までご連絡ください。また、支部活動にご理解ご支援いただける方がいらっしゃいましたら画報をお配りできますので、こちらは鷺森までご連絡よろしく願います。

また、関東近郊に拠点を置き、歌舞伎役者や、世界でも芸術活動等で活躍する方々も数多く増え、また新たな交流を広めようと、9月20日(水)に、美術科東



東京新宿にて交流会開催

京支部のメンバーが中心となりSNSを活用、普通科39回生でもご縁が繋がりが、東京新宿駅近くのお店で、「先輩を囲むプチ同窓会」を開催できました。互いの近況報告や人生の経験談にも熱が入り、2023年に開催する予定の記念すべき美術展に向けての協力や事業の継承、新事業にも積極的に取り組んでいきましょうと再会を約束しました。

関東支部で総会が開催された際には、学生を中心に連絡を取り合い、東京恵比寿での総会にも出席、会場内の展示に華をそえ、母校を懐かしく感じさせてくれました。

今後SNSなどを活用し情報を広め、活動の幅を深めていきたいと思えます。最後になりましたが、美術科支部活動にご理解を賜り深く感謝いたします。また、ご支援いただき本当にありがとうございます。

2018年度 同窓会美術科支部 総会のご案内

下記にありますように、第12回多総会を開催いたしますので、数多くご出席いただきますようお願い申し上げます。

記

期日 2018年6月30日(土)
時間 15時30分より
(受付は15時から)
場所 明石高校資料館



東京支部総会後の異世代美術科懇親会

【お知らせ】
同窓会美術科支部が運営する公式WEBサイトのホームページを開設。
ブログ・mixiや『明石高等学校同窓会美術科支部』facebook@meikouhijutsuでも配信中です。



同窓会美術科支部 ブログ



同窓会美術科支部 Facebookページ

自彊不息

このコーナーは、各界で活躍されている方、自分の夢を追い続ける個性的な方を紹介するものです。

夢は役者一筋に生きること

歌舞伎役者 中村芝のぶ氏

久保 清二さん(高38回)



久保清二さんは、明石高校38回(美術科1回生)を卒業後、一般家庭から歌舞伎役者をめざし単身で上京され、国立劇場第9期歌舞伎俳優研修を修了。役者として東京歌舞伎座で、初舞台を勤められました。同じ年、「7代目中村芝翫さん」の元へ入門され、中村芝のぶ(なかむらしのぶ)を名乗り、平成12年には、名題

試験に合格し、その後は名題役者として舞台を勤めるようになります。(屋号は成駒屋)

※以下芝のぶさんと明記

一口に「女方」といっても皆さんそれぞれに個性があり、その中から最良の方を見つけないかというのも、歌舞伎の楽しみ方の一つだと思います。私も、芝のぶさんの歌舞伎のお芝居を観劇する機会もあり、生で拝見する芝のぶさんの端正な容姿は高校生の時から変わらず、女性の私でもドキドキするほどに可憐で美しく、また上品な所作や舞踊の動き一つひとつが愛くるしく、日々の修練の成果だと感じられます。

役者として30年、古典歌舞伎への出演以外にもコクーン歌舞伎などや平成中村座公演にも複数出演され、外部では世田谷パブリックシアターで上演された「ハムレット」のオフィーリア役で出演されるなど。また「日本俳優協会賞奨励賞」や「国立劇場奨励賞」他、数々の受賞歴を持ち、実力も評価されております。

同窓会を期に交流も深まった9月、歌舞伎舞台の観劇を兼ねて楽屋にお邪魔し、舞台裏をみせてもらったり、平成30年3月に開催された舞踊会「梅笑會」のお知

らせもあり、取材させて頂くことになりました。(聞き手は副会長鷺森智美)

【改めて聞くのもなんですが(笑)、歌舞伎役者になりたいな〜と思ったのはいつ頃ですか?またそのきっかけは?】

高校入学時には歌舞伎役者になりたいと言っていたらしいです。きっかけは、中学生の時、母親に京都の顔見世に連れて行ってもらった時に、女方の大旦那方のお芝居を観て雷に打たれたような衝撃を受けたのがきっかけだったと思います。

【芝のぶさんにとって、高校時代の一癖の思い出は何でしたか?】

やはり、文化祭「明高祭」でのお芝居「未だ帰らず」の主役をやらせてもらったことですね。



'85 明高祭「未だ帰らず」

【当時、芝のぶさんは、音楽部に在籍されていたと聞いています。最近では同窓

会活動でのご縁もあり、懐かしい音楽部後輩や同窓生との交流も深められたようです。音楽部での交流や、その時のエピソードなど、ありましたら教えてください(笑)。

下手の横好きで入ってしまいましたが、やはり下手なので、トランペットからアルトサックス、アルトサックスからバリトンサックスへと左遷されていきました(笑)。それなのに3年生の時は、諸事情で部長になってしまい、随分と名門の足を引っ張ってしまったと思います。音楽部活動自体は皆、仲良く楽しくかったです。

【「初代中村芝のぶ」の名題を戴いた経緯はどんな風でしたか?また沢山の役者さんがいらっしゃる中、「7代目中村芝翫」さんの元へ入門(お弟子さんになった)したのは何故ですか?】

入門のきっかけは歌舞伎に詳しいお知り合いが『女方芸を教わるなら芝翫さんしかない。』と強く勧められ、その方の仲立ちで設けて頂いた食事会で、師匠にお目にかかった時に一目で『この方だ』と直感しました。名前は弟子入りしてすぐに頂いた者で『自分で候補を十ほど考えておいで。』と言われました。その中から師匠が選んで下さいました。

【歌舞伎役者の醍醐味はどんなところにありますか？また、粋な歌舞伎の楽しみ方などあったら教えてください。】

ゴールの無い所ですね。またお客様の楽しみとしては、お芝居そのものを堪能されるのはもちろんですが、最良の役者や、注目している役者の成長や出世を乐しむといった永いスパンの楽しみ方もございます。



歌舞伎座楽屋にて

【役者さんのお休みってどういう風にして過ごしますか？】

私の場合、基本的に休みはございません。休みたい時は自分から申し出る必要があり、その場合は基本的にひと月まるまる休みになります。休みの時も三味線などのお稽古には行きます。また普段観れないようなお芝居を観にいたりしてあります。映画や、録画しておいたドラマの観覧などやはり趣味もそういうものばかりになります。



梅笑會にて藤娘

【役者は体力勝負と聞きました(笑)。
芝のぶさんは女中でも評判の可憐で美しく所作も凜としていて、あの愛くるしいお姿からは想像もできませんが、舞台では相当なスタミナを使うのだろうと感じました。健康管理などどうされていますか？】

おっしゃるとおり。女方も大役となるとアスリート並の体力が必要で、かなり準備をして挑んだつもりでしたが、「梅笑會」はかなり堪えました(汗)。普段からの体力作りの大切さを痛感し、現在はあれこれと対策を模索中です。食事も気をつけているのですが、地方公演も場所によっては自炊もできず健康維持には苦労いたします。スクワットは毎日なるべくやるようにしています。

【平成30年3月に初めて、女方の市川笑

野さんとの共演が実現した(なんと！特別出演として市川猿之助さんが求女を勤められた)2日間の3回公演「梅笑會」の素晴らしさには私も興奮してしまいました。最終日にはカーテンコールも鳴りやまず歓喜に満ちた最高の舞踊会となりましたね。おめでとうございます！大成功に終演した要因は？】

やはり市川猿之助さんをはじめとして関係して下さった方々が本当に親身に応援、ご協力をして下さった事に尽きます。



舞台裏の時間に

【最後に芝のぶさんの今後の目標と、後輩へのメッセージをお願いします。】

50と言えど歌舞伎役者としては若手寄りでございますので、まだまだ修行の真ん中です。今後の目標としてはやはり体力作りですね。大役でも体を痛める事のないような身体にしていきたいと思えます。当面は、平成30年8月に国立劇場の

若手俳優の勉強会に出ますので、それまでには身体コンディションを万全に整えて臨みたいと思います。

後輩たちへのメッセージは『無駄な理由、出来ない理由はいらない。やりたい夢だけ持てばいい。』です。

☆取材を終えて

舞台休みの期間中であつた3月に、明石市の「人丸花壇」で開催された、明石高校38回生同窓会にも参加され、普通科旧友の再会にも、当時の面影そのままに、会話を楽しむ姿からは、まさか、あの「歌舞伎役者の中村芝のぶ」とは思ふまい(笑)。日々稽古に邁進と、勤勉さと謙虚さを兼ね備えた人柄は、今は亡き7代目中村芝翫さんの面影を移す鏡のようでした。私の誇れる同級生です。



取材の合間に

※中村芝のぶのブログ
Ameblo.jp/nakamurasinobu

部活動 同窓会だより

硬式野球部

坂本 信昭 (高35回)

平成29年6月『マスターズ甲子園2017兵庫大会』に初出場しました。
マスターズ甲子園とは、かつて高校野球に打ち込んだ元高校球児が阪神甲子園球場を舞台に、世代を超えたOBチームで挑戦する2004年に創設された大会で、今年も16府県で予選があり、379チームの参加がありました。



この大会に1984年の『第66回全国高校野球選手権大会』に出場した37回生メンバーが中心となり、35回生から69回生までの24名で参加をしました。

初戦は6月25日、強豪私学の「神戸国際大附属高校OBチーム」との対戦でした。現役は近年2連敗を喫していましたが、我がオールドメンバーは全く名前負けすることなく3-2で逆転勝利を収めました。

続く2回戦(7月9日)は「三田学園OBチーム」と対戦しましたが、残念ながら5-12で敗れ、ベスト4進出は出来ませんでした。

しかし、現役のユニフォームを借り、大会の趣旨同様に世代を超えたOB同士の結束が図れ、とても盛り上がる有意義な活動でした。

今年も6月から予選が始まりますが、昨年同様参加し、現役とともに『甲子園出場』を目指したいと思っています。

陸上部

森口 聡 (高30回)

明石高校陸上競技部章駄天会は、半世紀を超える歴史あるOB会です。その間、現役部員に対する支援を続けてきました。昨年も主な活動として、現役部員に対して練習用具の寄贈等の支援の他、11月には現役部員との交流を図ることを目的とした交流会の実施、日々の練習の指導、各種表彰等を行いました

また、年が明けて一月には、恒例のOB総会と懇親会を開催しました。



さて、現役部員の方は昨年、三年前の1500mの武下君以来3年振りに、走高跳の塩地君(三年)110mHの岩本君(二年)の二名が、京都・西京極競技場での近畿インターハイに駒を進め、共に初出場ながら緊張感のある中、自己記録を更新する勝負強さを見せてくれました。全国インターハイ出場こそ成りませんでした。彼らの人生の次のステージに繋がる競技であったと思います。

他の部員達も、寒風が吹く明高グラウンドでの冬の練習を終え、春のトラックシーズンを迎えようとしています。それぞれが新しい自分に出会えることを期待しているところです。

また、OB会としては、今後も、OBと現役部員の絆をより一層深め、現役部員が頑張れる環境作りに精一杯取り組んでいくつもりです。

バスケットボール部

和田 直樹 (高28回)

29年度は4月30日にOB総会現役親睦会を、8月13日にカーニバルを開催いたしました。そして先日年が明けて3月18日に70回生の祝卒業OB会歓迎食事を開会し無事今年度の全ての行事を終わりました。

カーニバルの時は綿密にハンディを計算し各チームの戦力が均等になるよう構成を考えてチーム分けをし、A1用紙にメンバー表をプリントして準備したのに、当日現役がドタキャンで9人欠席(泣)なんだかなあ。ここ10年の若手



OBの参加率の悪さをみてもOB会と現役の関係性の薄さを感じます。

で、30年度のOB総会は4月29日に行いますが、そこでOB会の存続も含め運営方針を議題に上げて話し合いたいと思います。この号が届く頃には結論が出ていると思いますがどうなります事やら。

しかしOB会にはOB同士の親睦を図るといもう一つ役割があるのも事実。総会やカーニバルが終わった後は場所を変えて楽しく飲んだり、毎週土曜日は明高体育館で午後6時からOBの練習をやったり、ね。

なので若い人も含めOB諸氏の行事への参加をお待ちしています。いやもうマジで。

明中・明高ゴルフ会

吉川 一幸 (高18回)

- ① 平成29年度の活動について報告します。第90回コンペの開催
4月6日、垂水ゴルフ倶楽部において参加者53名で開催しました。結果は、次の通りです。
優勝 大塚弘一氏 (高15回)
準優勝 大森一郎氏 (高26回)
- ② 第91回コンペの開催
10月12日、明石ゴルフ倶楽部において参加者45名で開催しました。結果は、次の通りです。
優勝 中山二郎氏 (高15回)
準優勝 柏木善義氏 (高25回)
- ③ 終了後には懇親会を開き、会長挨拶、前回の決算報告、新規会員紹介、コンペ成績発表等行い、校歌を歌い、大いに盛り

り上がっております。

引き続き新規会員を募っていますので、関心のある方は、左記にご連絡下さい。(株)ながい 078・936・0751
コンペは、4月に垂水ゴルフ倶楽部で、10月は明石ゴルフ倶楽部で行っています。

高13回生関東同窓会

灰谷 十八男

平成29年12月1日、明高13回生首都圏同窓会が、横浜市の三溪園に、明石・鳥取・山梨の遠来ゲスト3名を含め、21名が参加して開催されました。

三溪園は、明治から大正にかけて製糸・生糸貿易で財を成した原三溪が、東京湾に面した地に造りあげた、5万4千坪の日本庭園に、京都・鎌倉などから集められた17棟の歴史的建造物を配し、国の名勝に指定、庭園全域も文化財の名園です。
三溪園でバイリンガルのボランティアガイドとして活躍し、今回幹事役でもある西村博夫君の案内で、紅葉真っ盛りの庭園を散策しました。庭園の成り立ちや各建造物の見事なガイドに皆さん感心し、何気なく見物していると大違いと感謝の連続でした。又、見事な紅葉とのコラボにシャッター音絶えない散策となりました。

散策後、中華街に移動し重慶飯店個室で四川料理に舌鼓を打ちながらの、近況報告懇親会に話が弾みました。皆さんの充実した趣味や活動の披露に、お互い刺激を受けながらの2時間はあっという間に過ぎました。12月のホノルルフルマラ

ソンに挑戦するとか、フラダンスに夢中とか、三溪園に続いて鎌倉のガイドライセンスに挑戦中とかの、歳を感じさせない強者もいてびっくりでした。

(後日12月10日のホノルルマラソン完走の報告がありました)

懇親会後、大半の方が後期高齢者になったこともあり、お互い元気で次回再会を誓い合って一旦解散となりました。

解散後、有志で横浜港が一望できる山下公園で腹ごなしをし、近辺のホテル・ティールームでの補習懇談で終えました。

この会は毎年持ち回り幹事で、首都圏各都県の見所を順に訪れることにしており、今年はアレンジが整えられるようなら、東京・赤坂の迎賓館を計画することになりました。

今回も遠くから3人の方が参加して下さいました。関東に身内等がおられ、訪問を兼ねて参加してみようという方は是非連絡下さい。大歓迎です。

この会に皆勤だった方の中に、体調不良で不参加の方も散見されました。快気され次回の再会を祈念しております。

高13回生ゴルフコンペ

井上 昌俊

平成29年5月11日、高13回生の「第14回喜春会ゴルフコンペ」が、富士OGMゴルフクラブ/小野コースで、18名が参加して行われた。後期高齢者の仲間入りを機に、今回を最終回として区切りをつ

けた。幹事役の皆さん、長い間お世話をありがとうございました。

- 成績上位者は次の通りです。(敬称略)
- ・優勝 森 三千雄(グロス101、ネット76)
- ・2位 日下 孝明(グロス86、ネット77)
- ・3位 中庄谷康弘(グロス87、ネット77)

同窓会入会あいさつ

西岡 美裕 (高70回)

この度は、私たち第70回生、355名の「自彊会」への入会をお認めいただき、ありがとうございます。自彊会の一員となれたことよって、卒業後も母校とのつながりを感じることができ、大変うれしく思っています。

伝統ある同窓会の一員としての誇りと自覚を持って、70回生全員がそれぞれの人生を歩んでいきます。

まだまだ若い私たちですが、自分の夢と希望に向かって力の限り挑戦し、役立つ社会人へと成長したいと思っています。在学中はお世話

になることばかりでしたが、母校の後輩たちや同窓会に少しでも力となれるように頑張ります。

これからご指導ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願いたします。



お世話になりました

「伝統の力」

前教頭 藤 本 雅 人



平成28年に教頭として明石高校に着任しました。多くの生徒と先生方に支えられた2年間で

しました。そして教頭として生徒たちの素晴らしい点を多く知ることができたことは幸せだったと思っています。

中でも明高での驚きは明高祭における3年生の演劇でした。鑑賞に十分耐える発表に明高の生徒のレベルの高さに感動しました。生徒一人一人の能力の高さに加えクラスの一致団結した取組みがなければ、このようなクオリティの高い演劇はできなかつたと思います。このような素晴らしい発表を明高の生徒ができるのは、先輩が先輩に手本を示す、そして先輩が先輩を乗り越えてさらに素晴らしいものを作る、そういった空気が明高にあるからです。言い換えればそれが伝統の力だということです。

「自彊不息」「自治、協同、創造」の意味するところをしっかりと受け継ぎ明高の生徒が各々の志を実現してほしいと願っ

ています。

2年間、本当にありがとうございました。

「尚文昌武」と「自彊不息」

鈴木 龍 仁



音楽科の教員として、実に16年という長きにわたり明高にお世話になりました。その間お世話になりました話になります。

多くの皆様に感謝し、心よりお礼申し上げます。

さて、私自身も高校生の時には、「尚文昌武」という母校の校是のもと、「少なくとも三兎を追え」と、勉強や部活動、学校行事に忙しい高校生活を送っていました。同様に、明高にも「自彊不息」という校是と、「自治、協同、創造」という校訓があります。教師が持っているものを徹底して教授し、ゲイグイと引張っていく指導方法もある中、私は、生徒たちが「自らの力で考え、行動し、自らの力で実現させていく」方法をとりま

した。まずは自分たちが思った通りにやってみて、失敗した時には何故そうなったかを反省し、二度と繰り返さないためにはどうしたら良いかを考えさせる。たとえ進みは遅くとも、その方が社会人になってから大きく伸びると考えたのです。果たしてこのやり方が正しかったのかどうか、私には判りません。しかし、卒業して何年かののちに母校に戻り、生き生きと現況報告をしてくれる若い卒業生たち

ようこそ

初心に帰って

教頭 木村 健 治

この度、春の人事異動で着任しました、教頭の木村と申します。高等学校に勤務し始めて34年目の春を迎えましたが、昨年までは多部制の県立阪神昆陽高等学校で勤務しておりました。この学校は定時制高等学校3校を統廃合して創立した開校6年の新しい学校で、私は開校準備室の時から勤務しておりました。

久しぶりの全日制高等学校の勤務のために、戸惑うことも多い分、新鮮に感じられることも多く、生徒の皆さんの明るさや素直さに助けられながら、一日一日があつという間に過ぎていきます。阪神間の学校にいるときから、明石高校は勉強や部活動の両方を頑張る文武両道の学

の言葉から、遅しきや大きな成長の跡を感じる度に、彼らに励まされ、背中を押されて何とかここまで来ることができました。

新任地は、生徒が国際科のみという非常に個性の強い高校ですが、心を新たにしていきたいと思います。末筆になりましたが、明高および自彊会のさらなるご発展と、皆様のご多幸をお祈りして、転勤の挨拶といたします。

明高へ

校であり、また先生や保護者、地域の方から明石高校生は信頼されていると聞いております。90有余年の歴史ある明石高校で皆さんの先輩と一緒に学べることを本当にうれしく思っています。また、成長と夢の実現に、心より役立ちたいと思っております。微力ながら初心に戻って頑張ります。どうかよろしくお願いいたします。

心機一転

米 田 忠 雄 (高35回)

この度県立伊川谷高等学校から赴任してまいりました米田忠雄と申します。母校とはいえ、卒業して40年近く経つと校舎も建て替えられ、足繁く通った図書館も今はありません。(学校の前を通るた

びに眺めてまだあるまだあると思っ
たのは資料館でした。久しぶりに足を
踏み入れた母校の変わりように最初のう
ちは戸惑いました。しかし講堂などいく
つかの建物の当時のままの佇まいや今も
変わらず生い茂る種々の草木の眺めには
心癒されます。まだまだ不慣れで不安な
気持ちはありますが、私も新人生の一人
になったつもりで気持ちも新たにこの地
で日々充実した時間を過ごしたい所存で
す。これからどうぞよろしくお願いいた
します。

懐かしい母校

岡野 安希子 (高40回)

このたび、県立加古川北高等学校から
赴任いたしました、岡野と申します。教
育実習以来初めて校舎内に入り、校舎は
変わったものの、ところどころに懐かし
い箇所が残っていて感慨深いです。今の
季節は校内に花が咲き誇り、改めて母校
がこんなに光輝いていることとときめき
を感じました。高校生時代に、明石高校
のおおらかで、生徒の自主性を重んじる
校風に大変救われました。また、やると
きはやる、すごい人がたくさんいるのも
刺激的でした。今の自分の礎を築いてく
れた母校で務めることができるのは、教
員としてとても幸せなことだと思ってい

ようこそ明高へ！

満開の桜が咲き誇る4月2日、
これから明高でご活躍いただく先
生方が着任されました。

開校95年になる母校は、開校以
来の大家族主義がもたらすのかも
しれませんが、良い意味での「お
おらかさ」と「アバウトさ」があ
ると思います。

着任いただいた先生方に新風を
吹き込んでいただき、母校がさら
に飛躍・発展することを期待して
います。

ます。今年度は2年生を担当いたし
ます。これからは、担当の英語を通じ、生徒た
ちの進路実現に尽力していきたいと思
います。どうぞよろしくお願いいたし
ます。



☆ 転退任 ☆

人事

- 藤本 雅人 先生 [教頭] (加古川南高校へ)
- 難波 牧人 先生 [理科] (退職)
- 淵本 正彦 先生 [実習] (退職)
- 高須 峰生 先生 [英語] (再任用退職)
- 菊池 久司 先生 [英語] (明石城西高校へ)
- 藤村 明子 先生 [英語] (舞子高校へ)
- 鈴木 龍仁 先生 [音楽] (国際高校へ)
- 川原 徹也 先生 [英語] (須磨友が丘高校へ)
- 朝山 貴子 先生 [英語] (加古川北高校へ)
- 田中 稔大 先生 [英語] (農業高校〔定〕へ)
- 加野 貴啓 先生 [数学] (西宮甲山高校へ)
- 中原 葉子 先生 [養護] (明石北高校へ)
- 田中 涼子 先生 [事務] (三木北高校へ)
- 重松 修 先生 [事務] (東播磨高校へ)
- 澤中 日出雄 先生 [事務] (退職)

☆ 着任 ☆

異動

- 木村 健治 先生 [教頭] (阪神昆陽高校より)
- 難波 牧人 先生 [理科] (明石高校より)
- 淵本 正彦 先生 [実習] (明石高校より)
- 瀬尾 恵子 先生 [英語] (明石城西高校より)
- 米田 忠雄 先生 [英語] (伊川谷高校より)
- 岡野安希子 先生 [英語] (加古川北高校より)
- 高場 政晃 先生 [英語] (神戸北高校より)
- 前澤 聖子 先生 [英語] (豊岡高校より)
- 蔵岡慶一郎 先生 [数学] (村岡高校より)
- 木東 竜志 先生 [音楽] (加古川北高校より)
- 古賀 真樹 先生 [英語] (新採用)
- 岸本 雅子 先生 [養護] (明石北高校より)
- 横山百合子 先生 [事務] (吉川高校より)
- 藤野 勝英 先生 [事務] (初任)

チャレンジ明高!!

30年4月進路結果

第70回卒業生を

宜しく願います

70回生第3学年主任
山田 達雄



気持ち良い初夏の風が感じられる頃となりました。自彊会の皆様方におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、明石高校では去る3月1日に第70回卒業式が挙行され、男子142名、女子213名の計355名が自彊が丘を巣立ってまいりました。自彊会の皆様方が数多くの支援をして下さったお蔭と考えております。改めてお礼申し上げます。

第70回生は、普通科(美術科は除く)の学区が大きく変更された初年度生の生徒でありました。それにともなつて、入学希望者の学力に変化はありまし

平成28・29・30年4月進路実績表

大学名	28年	29年	30年
【国立大学】			
帯広畜産大	1		
北海道教育大	2		
東北北道大			1
筑波大	1		1
群馬大	1		
東京海洋大	1		
東京藝大	1(1)		1(1)
富山山科大			1
信州大		1	
滋賀大	1		
京都大	1	1	
京都教育大	1		
京都工繊大		1(1)	
大阪大	2(1)	1	2
神戸大	1	1	2(1)
兵庫教育大	2	1	
奈良教育大	1	1	
奈良女大	1		
和歌山大		1	
鳥取大		2	6
島根大	1	1	
岡山山科大	2	4(1)	2
山口大		1	2
徳島大	3		3
鳴門教育大	1		
香川大			1(1)
愛媛大		1	1(1)
高知大	1(1)	1	
琉球大		1	
合計	25(3)	21(3)	23(4)

【公立大学】			
ほこだて未来大	1		
岩手県立大		1	
秋田県立大			1(1)
秋田公立美大	1		1
首都大東京大	2(1)		
富山県立大		1	
金沢美術工芸大	3	2(1)	1(1)
愛知県立芸大	2	1	
京都市立芸大	2	3(2)	3(1)
大阪市立大	1(1)		1
大阪府立大	1	1(1)	
神戸市看護大	1		
兵庫県立大	12(2)	11(1)	4
神戸市外大			2
奈良県立大		1	
公立鳥取環境大	1		
新見公立大		1	1
岡山県立大	1(1)	3(1)	2
尾道市立大		1	1
県立広島大	2		
広島市立大	1(1)	1	1
高知工科大			1
高知県立大			2
沖縄県立芸大		1	1(1)
合計	31(6)	28(6)	22(4)
国公立大学合計	56(9)	49(9)	45(8)

【私立大学】			
自治医大			1(1)
青山学院大			1
慶応大			2(1)
国士舘大	1		
芝浦工大	4(1)		
女子美大		1	7
多摩美大	13(2)	7(2)	8
東海大		1	
武蔵野美大	7(2)	7	4
早稲田大		3(3)	
明治大	1		
立教大	1		
金沢工大	5(4)	1	1
京都産大	2	12	3(2)
京都女子大	1		
京都精華大	10(1)	7(1)	14
京都造形芸大	2	1	5
同志社大	20(1)	19(3)	2
同志社女子大	4	1	
佛教大	5	1	
立命館大	25(14)	7	8
龍谷大	13(1)	4(2)	1
追手門学院大	3		
大阪経大	11(1)	13(1)	4(2)
大阪芸大		1	2
大阪工大	9(2)	24(4)	22(9)
大阪産大	4	12	27
大阪電気通信大	8(1)	8	11(1)
大阪薬大		1	1
関西大	90(7)	56(3)	29(5)
関西外大	13(1)	2	11
近畿大	57(5)	66(10)	42(10)
摂南大	2	5(3)	7
大和	13(4)		11
関西学院大	61(3)	51(8)	19(3)
甲南大	81(4)	57(5)	47(9)
甲南女子大	43(2)	20	18
神戸学院大	71(1)	86(3)	98(3)
神戸芸術工科大	3	7	12
神戸学院大	12	7	3
神戸女子大	30	15	19
神戸薬大	2	3	1
松蔭女子学院大	10	14	16
神戸親和女子大	11	6	13(1)
武庫川女子大	35	18	21
その他	1(1)	90(4)	136(4)
合計	754(58)	638(54)	623(49)

防衛医科大学校		1(1)	
国立看護大学校		1(1)	
文部省管轄外合計	1	2(2)	

短期大学合計	43	31	27
--------	----	----	----

専門学校合計	45	58	46
--------	----	----	----

就職・公務員合計	3	6	7
----------	---	---	---

数字は合格総数、()内は既卒生の合格数
4月2日現在

が、本校への入学を目指した生徒がほとんどでしたので、3年間の高校生活をそれぞれの形で謳歌し、成長していったくれた

と考えています。直接の指導にあたりました学年団の教員一同、入学時より3年後の進路希望実現を根幹にした教育活動に取り組んでまいりました。特に生徒指導を通して基本的な生活習慣の確立や部・クラブ活動との両立、学習面では補習・課題・進路面談等で学習習慣の定着、そこで培った気力・体力・学力を進路希望の実現へ結び付ける指導を心掛けて

まいりました。しかしながら現実の厳しさ、特に私立大学における合格定員の厳守(合格者の水増しへの文科省の指導)は、本校生徒にも重くのしかかってきた感があります。更にしっかりとした学力の育成が必要であったとの反省もいたしております。また、進路未定のもも居りますが、来年度も丁寧に付き合っていくたいと思っております。

文化祭・体育祭・遠足・修学旅行等、学校行事への積極的な参加によって自主性・コミュニケーション能力が向上し、一回り大きく成長して卒業してくれました、との思いもいたしております。

第70回卒業生は、私どもが精一杯大切に係わってきた生徒達です。至らぬ所も多々ありますが、卒業後は自彊会新会員として、皆様方の変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

自彊セミナー参加報告

美術系大学コースに参加して

3年 清次 千晴

今回美術系大学オープンキャンパスツアーが初めて企画され、京都市立芸術大学と京都美術工芸大学に行ってきました。

京都市立芸術大学は落ち着いた雰囲気、最も歴史のある芸大としての伝統の重みを感じました。全体説明会と専攻説明会を聞いて、校風や授業のカリキュラムから気になる入試情報まで、詳しく知ることができました。施設見学で漆工房を伺った際に、漆はかぶれないのかと学生の方に尋ねてみたところ、「最初はかゆくて大変だったけど慣れると大丈夫になってくるよ」と親切に教えて頂いたことが深く印象に残っています。学生作品も非常にレベルが高く、かつ個性的です。すばらしく感じ、京芸への憧れが一層強くなりました。

京都美術工芸大学は最新の設備が整えられており、綺麗なキャンパスでした。いくつかの体験ブースのうち、私は木を削って鉛筆を作る体験に参加しましたが、木をカンナで均等に削るのが意外にも難しかったです。しかし芯を入れて鉛筆が

完成した時は、嬉しさと達成感で胸がいっぱいになりました。

バスツアーを企画してくださったことは、個々に参加することに比べて費用や交通の面でとても助かりました。そして何よりも一日に二つの大学で、説明会や施設見学や体験に段取り良く参加できたことが一番良かったです。内容も充実しており、有意義な一日になりました。特に在学されている学生の生の声は、実際に行ってみないと分かりません。志望校を選ぶ上で自分の目で見て、体験することの大切さを実感しました。このような機会を与えてくださったことを心から感謝致します。



京都市立芸術大学

関西学院大学に行つて

3年 阿部 志信

僕は今回の夏休みを使い関西学院大学のオープンキャンパスに行ってきました。

関西学院大学はいくつかのキャンパスにわかれているのですが今回は西宮上ヶ原キャンパスに行きました。関西学院大学のキャンパスはとてもきれいで、そして質問にもすぐに返答してくれる関学生は本当に素晴らしかったです。

ここで僕が関西学院大学に行き特に良かった所を紹介します。

一つ目は多様な学科があるところです。関西学院大学の学科には神学部、文学部、社会学部、教育学部、他にも様々な学部がありいろいろな夢に向かっていけるんだと思いました。

二つ目は充実した設備です。西宮上ヶ原キャンパスには様々な本がある大学図書館や服や本など豊富な品がある売店など、学生が楽しく大学生活を過ごせる設備が他にも多くありました。

今回のオープンキャンパスを通して関西学院大学の素晴らしいところをたくさん知れたと同時に関西学院大学に行きもつとさまざまなことを学びたいという気持ちが強くなりました。



関西大学



関西学院大学

伝統



着実な歩みが続けて

顧問 青山 与志枝

文芸部

明石高校文芸部は長い歴史のある部活です。

昭和23年に明石高校文芸部の部誌「明星」の第1号が発行されています。また昭和35年に明石高校図書部から部誌「邂逅」の第1号が発行されています。

現在では明石高校文芸部の部誌を「邂逅」として発行しています。文芸部と図書部が一緒になったようですが、その間のいきさつはよくわかりません。

「邂逅」は、6月に文化祭号、10月に秋号(総合文化祭号)、2月に春号(卒業記念号)と、3回発行しています。平成21年度からは、3月に明石北高校とのコラボ誌「凸凹」も作っています。

文化部も発表と交流の機会が必要だということ、平成20年度から、兵庫県高校生総合文化祭の文化部合同発表会が始まり、明石高校文芸部も最初から参加しています。平成23年度まで4年間の合同発表会の時期を経て、平成24年度から文

芸部門は兵庫県文化連盟のひとつの部門としてたちあがり、独自に発表会とコンクールを行うようになりました。平成29年度で6回目を数えています。

平成29年度は兵庫県高校生総合文化祭の開会行事が明石淡路地区担当で、明石市西部市民会館で開催されました。文芸部門の紹介は明石高校が担当し、高校生文芸部集(第5集まで)と明石高校の「邂逅」の展示や、パワーポイントを利用しての部門紹介をしました。



兵庫県高等学校文化連盟の文芸部門の発表会は、例年11月にのじぎく会館を会場に、作家や編集者の方による講演会や、交流行事としてリレー小説や部誌交換などが行われます。ここでは、部誌と文芸部集に使う表紙絵コンクールの投票が行

男子ハンドボール部

われ、あらかじめ審査されていた散文・詩・短歌・俳句の各部門の入賞者をあわせて表彰式も行われます。コンクールでは、散文部門で、2年の石田のどかさんが優秀賞(2位相当)を受賞、来年度の近畿大会出場権を獲得しました。また石田さんは、表紙絵部門でも優秀賞を獲得しています。写真は表彰式の様子です。

毎年3月にはのじぎく会館でリーダー研修会が行われます。一昨年は短歌のワークショップと歌会、昨年は俳句のワークショップと句会、今年は散文のサークショップが予定されています。

平成29年度の部員数は、3年5名、2年2名、1年2名と決して多くはないのですが、活発に活動しています。新入生を勧誘し、さらなる発展をめざしています。

近畿大会を経験して

顧問 寺口 吉行

平成30年1月19日〜21日に近畿新人選手権大会が京都府で開催されました。我が明高ハンドボール部男子は平成16年度以来13年ぶりに出場することができました。地元兵庫県で開催され



る全国選抜大会の予選ということもあって、とても興奮しました。

県大会では苦しい試合を勝ち上がり、何とか2位を確保しての出場でした。この近畿大会で5位以内に入れば自力で全国大会の出場が決まります。理想はそこにありますが、そんな実力はまだまだありません。県大会1位の神戸国際大附属が予選を突破すれば開催地枠での出場の可能性もありました。そんな他力本願も期待しつつ大会に臨みました。

『とにかく「挑戦」。近畿、全国に向けてチャレンジャーとして戦う』ということを含い言葉に練習を積みました。選手も目的意識を高く持って取り組んでく

れました。しかし、期末考査が終わり、「さあ、これからだ」という時に待っていたのは、入れ替わり立ち替わりの、インフルエンザをはじめとする体調不良者の続出でした。そして全員での練習ができず、さらに予定していたトレーニングや練習試合もできない状態でした。結局、全員が揃ったのは大会3日前でした。それでもやれることはやり、モチベーションは高く持っていたように思います。

予選リーグ第一試合、和歌山県の紀北農芸高校。10月の遠征では練習試合で勝っている相手でしたが、前半3点差をつけられ折り返しました。後半追い上げ、1点差までできました。展開は押せていたのですが、そのまま逆転と思いましたが、いつものような粘り強さがなく、結局敗れました。試合後の選手をみると予想以上に疲労困憊していました。やはり練習不足でした。1試合空けての2試合目は大阪府の強豪、桃山学院。結果は無残な完敗でした。13年ぶりの挑戦は終わってしまいました。

「まだまだお前たちは修行が足りない」「もう一度鍛え直して出直せ」と言われたような気持ちになりました。大会前の体調管理も含め、もっともっとやらなければならぬことがあったように思いま

す。結局、県1位の神戸国際大附属も5位以内に入れず、開催地枠の夢も消えてしまいました。私も選手も結果を謙虚に受け止め、力の無さを自覚しました。この悔しさをバネに今後、真の実力を付けるため、真の努力を心がけたいと思っています。「自彊不息」の精神のもとに。



男子ソフトボール部

平成29年度を振り返って

顧問 市毛 啓之

平成29年11月に行われた兵庫県新人大会において、決勝戦で宿敵である滝川高校を3対0で下し、2年ぶり10回目の全国選抜大会への出場を果たすことができた。高知県において行われ

た全国選抜大会では一回戦は鳥取県立鳥取中央育英高等学校に3対2、二回戦では大分県立大分日田林工高等学校に5対2で勝利することができた。三回戦では徳島県立徳島科学技術高等学校に0対4で敗れベスト16での敗退となったものの、この一回戦、二回戦の勝利というのはチームの成長を感じた瞬間であった。二試合ともに2点を先制され、苦しい試合だったが、着実に点を返していき、逆転することができた。このような展開で勝利できたのも、平成29年6月に行われた兵庫県総合体育大会の準決勝、山崎高校戦の3対6での悔しい敗戦があったからだと感じている。この試合では相手に先制され、先制された焦りから普段の実力を発揮することができないまま試合が終わってしまった。この試合で学んだ、一発勝負の公式戦で勝つことの難しさ、普段の実力をいかに本番で発揮させるかなどそ

れぞれが敗戦から考え、常に練習で取り組んできたことが結果として表れた瞬間だった。

この一年間明石高校男子ソフトボール部は近畿大会準優勝、そして、全国選抜大会でのベスト16という結果を残すことができた。しかし、全国選抜大会では全国の強豪校のレベルの高さを痛感し、全国大会で勝利することの難しさを感じた。今年度の結果に満足することなく、全国で戦えるチームとなれるようさらなる努力を積み重ねていきたい。また、ソフトボールだけでなく、学校行事などさまざまな面で活躍できるチーム、選手づくりを目指し、平成30年度はさらなる飛躍を遂げたい。



小田昇	立花三	浅田三	浅田三	高3校	魚住	山本月	高1校	玉澤	内田	中学	林谷	中19	福岡	福水	清木	柏木	中学	前田	北山	中学	山中	中木	中学	速水	中15	森川	籠谷	中14	前川	中13	松岡	中5	木嶋	旧職員	お悔み				
一郎	博彦	久	稔	治	雄	男	茂	則	彦	新	三	秀	秀	満	二	進	恵	守	行	人	一	治	幸	次															
栞	子	行	昭	子	康	行	雄	郎	卓	子	子	司	子	司	平	晃	子	彦	夫	一	子	勤	子	司	信	司	男	男	子	子	浩								
しご	判	明	(4	月	末	日	ま	で	の																													
白	木	本	家	義	和	夫	郁	拓	司	宏	和	光	二	俊	子	樹	克	信	己	博	夫	郎	彦	寿	一	夫													

2018年度同窓会役員

会 長 竹内 信六(高13回)	中尾 和一(中17回)	宮地 宏明(高25回)	西角 千尋(高57回)
副会長 安藤 勉(中18回) 伊川美智子(高16回) 佐々木卓郎(高18回) 和田 直樹(高28回) 鷺森 智美(高38回)	安藤 勉(中18回) 竹原 學(高1回) 佐野 卓司(高2回) 桃尾 行男(高3回) 渊上 初美(高3回) (高4回) 向井 勝夫(高5回) 尾上てる予(高5回) 密谷 和正(高6回) 高德 雄三(高6回) 安藤 博美(高7回) 伊藤 雅子(高7回) 石井 清隆(高8回) 嶋崎 晴夫(高8回) 堤 明(高9回) 小山 孝治(高10回) 藤原 博(高10回) 柳瀬 弘(高11回) 佐々木伸一郎(高12回) 前田 良昭(高13回) 井上 健(高13回) 谷川 博男(高14回) 谷口 卓海(高14回) 手塚佳世子(高14回) 津野 弘子(高15回) 岡本 建二(高16回) 奥田 寛(高17回) 佐々木卓郎(高18回) 岩澤 武(高19回) 井上 利夫(高19回) 川井 功一(高19回) 尾谷三枝子(高19回) 池田 隆行(高20回) 村松 克行(高20回) 藤丸 達美(高21回) 池内 満(高22回) 南谷 雄司(高23回) 高木 文雄(高23回) 河合 昭彦(高24回) 河合 嘉(高24回) 瀬川勝太郎(高25回)	熊谷 典子(高25回) 上山 宏(高26回) 永井 邦治(高27回) 八木 雅史(高27回) 藤本 英子(高28回) 竹林 秀野(高28回) 木下佳代子(高28回) 小椋 利雄(高29回) 福本 明彦(高30回) 吉田 信次(高31回) 三木 翔理(高32回) 宮脇 貢(高32回) 長野 雅三(高33回) 松本 和三(高33回) 荒牧 和美(高33回) 堀田 健一(高34回) 田方 宏幸(高34回) 井上利可子(高35回) 石下 景教(高36回) (高37回) 西川 昌宏(高38回) 川端 大造(高38回) 黒木 明弘(高38回) 廣中 芳範(高39回) 北山 力也(高40回) 梅田 光一(高41回) 谷口 正晃(高42回) 高雄 正臣(高43回) 稲葉 展(高44回) 本田 学(高45回) 藪内 健吾(高46回) 西山 武(高47回) 澤田 雅文(高48回) (高49回) (高50回) 芝 純司(高51回) 木村功太郎(高52回) 小島 一朗(高53回) (高54回) 橋本 真彰(高55回) 村中 裕(高56回)	山本 芳行(高58回) 佐藤 匠(高59回) 竹内 裕貴(高60回) 和田 亮磨(高61回) 西山 直幸(高62回) 中下 将太(高63回) 小柴 智弘(高64回) 櫻井 拳人(高65回) 山内 圭哉(高66回) 平田 茉莉香(高67回) 星野 優輝(高67回) 松村みなみ(高68回) 山澤 勇登(高68回) 前山 颯太(高69回) 豊田 萌夏(高69回) 西岡 美裕(高70回) 木戸健太郎(高70回)
監 査 加護谷榮章(高7回) 草川 雄二(高11回)			兵庫県庁支部 安井 幹雄(高29回)
顧 問 蔭木 原洋(校長) 岸本 潔(中19回) 越智 聰明(高1回) 秋山 泰治(高1回) 松本 ヤス(高2回) 清水 正孝(高3回) 浅田 弘子(高6回) 茨木 智(高8回) 米澤 淑介(高12回) 三浦 宏(高14回) 松本嘉代子(高16回)			神戸市役所支部 明石市役所支部 前田 豊(高29回)
学年理事 梶原 勝美(中6回) 浅田 正行(中14回)			淡路支部 関東支部 野呂 良久(高14回)
			美術科支部 鷺森 智美(高38回)
			事務局 木下 裕一(高15回) 吉田 眞司(高21回) 寺口 吉行(高34回) 上田 修平(高56回)

※※※ 同窓会開催のお知らせ ※※※

高8回生

- 1 期日 2018年9月27日頃
- 2 場所 舞子ビラ神戸の予定
- 3 連絡 今回はE組が担当。
ご案内は7月下旬の予定。

高11回生

- 1 期日 2018年11月10日(土)
- 2 場所 グリーンヒルホテル明石
- 3 連絡 ご案内は夏ごろの予定。



高19回生

- 1 期日 2018年11月4日(日)正午～
- 2 場所 西明石ホテルキャッスルプラザ
- 3 連絡 今回は古希記念です。
ご案内は夏ごろの予定。

高21回生

- 1 期日 2018年11月15日(木)13時
- 2 場所 ANAクラウンプラザホテル
- 3 連絡 卒業50周年記念の集まりです。
ご案内は夏ごろの予定。

高29回生

- 1 期日 2019年2月9日(土)
- 2 場所 グリーンヒルホテル明石
- 3 連絡 今回は人生の節目となる還暦。
多数のご参加を！

高31回生

- 1 期日 2018年8月12日(日)14時～
- 2 場所 西明石ホテルキャッスルプラザ
- 3 連絡 卒業40周年記念の集まりです。
連絡先：吉田信次 (090-8203-4662)



事務局よりお願い

- ① 転居されたときには新住所をお知らせ下さい。
- ② お亡くなりになった方の連絡については、間違い防止のため、ご逝去の年月日を必ずお知らせ下さい。
- ③ 学年全体の同窓会を開催される場合、支援金をお渡ししますので、代表の方は事務局へご連絡をお願いします。
- ④ 事務局が常駐でないため、電話が繋がらないことも多いと思います。住所変更等の連絡は、ファックスが一番確実です。
FAX 078-913-6554
- ⑤ 同窓会運営の基礎となる年会費の納入に、ご協力をお願いします。お手数ですが郵便局ATMのご利用をよろしくお願ひします。

※手数料(同窓会負担)
郵便局(窓口130円・ATM80円) コンビニ108円

平成29年度決算報告 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1 一般会計				(単位:円)
(収入の部)		予算額	決算額	増減
1	平成28年度繰越金	1,387,278	1,387,278	0
2	平成29年度年会費	7,800,000	7,956,000	156,000
3	財政調整基金より	3,200,000	3,200,000	0
4	雑収入(ご寄付、銀行利息等)	12,722	182,935	170,213
合 計		12,400,000	12,726,213	326,213
(支出の部)		予算額	決算額	増減
1	会議費(総会・理事会・本部役員会等)	600,000	447,720	△152,280
2	事業費(母校・学年等への支援・広報活動等)	8,790,000	8,168,304	△621,696
3	事務費(事務局・維持管理等)	2,700,000	2,604,888	△95,112
4	100周年積立金	300,000	300,000	0
5	予備費	10,000	0	△10,000
合 計		12,400,000	11,520,912	△879,088
収入合計12,726,213円－支出合計11,520,912円＝収支差額1,205,301円(次年度繰越)				
2 基金				(単位:円)
		(収入の部)	(支出の部)	
①	財政調整基金			
	平成28年度繰越金	173,000		
	在校生納入	3,168,000		
	一般会計へ繰り出し		3,200,000	
	次年度繰越金		141,000	
合 計		3,341,000	3,341,000	
②	自彊セミナー特別基金			
	平成28年度繰越金	1,073,768		
	銀行利息	9		
	活動費(大学見学バス借り上げ料等)		218,854	
	次年度繰越金		854,923	
合 計		1,073,777	1,073,777	
③	100周年記念事業特別基金			
	繰越金	1,000,000	0	
	29年度積立金	300,000	0	
合 計		1,300,000	0	
3 監査報告				
平成29年度の決算並びに関係業務について、会計帳簿および関係書類を監査照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。				
平成30年4月5日				
		監査	加護谷榮章	印
		監査	草川 雄二	印

平成29年度事業報告 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

月	日	内 容	月	日	内 容
4	10	会報第25号編集委員会(第3回)	10	14	第2回理事会
	22	第1回本部役員会		28・29	自彊セミナー「全統記述模試」(3年生)
	22	会報第25号編集委員会(第4回)	11	25・26	自彊セミナー「全統センタープレテスト」(3年生)
5	6	第1回理事会	1	19	第4回本部役員会
	27	会報第25号発行			同窓会役員等交流会(於 グリーンヒルホテル明石)
6	17	第2回本部役員会	2	17	第5回本部役員会
	24	平成29年度総会(於 生涯学習センター)		17	会報第26号編集委員会(第1回)
7	10	第1回自彊セミナー運営委員会		28	第70回生同窓会入会式
8	5	自彊セミナー「関西学院大学」見学	3	10	第3回理事会
	6	自彊セミナー 「関西大学・京都市立芸術大学等」見学		10	会報第26号編集委員会(第2回)
9	9	第3回本部役員会		21	第68回生成人記念同窓会
	9	第2回自彊セミナー運営委員会			

会費納入にご協力をお願いします

同窓会から同窓会開催の支援をしています

これは公立高校では大変ユニークな例です



成人の集い



還暦記念の祝い

会員の親睦の取り組み
同期会・人生の節目を祝う会・
部活OB会などへの支援



会報の発行を年1回行っています

母校支援の取り組みをしています



高48回 筧 有子氏 美術科講演会



体験講座
大学のオープンキャンパスに行こう



同窓会の財源も年々厳しさを増しています
どうか皆様からの温かいご支援を!!

ふるさとひょうご寄附金 お礼とお願い

お陰をもちまして平成2018年5月1日現在、316万円の寄付金をいただき感謝申し上げます。この度、更に生徒の活動に適したグラウンドとするため、目標額を430万円に変更させて頂きました。

目標達成に向けて引き続きご支援をよろしく申し上げます。

いきいき部活動活性化事業 ～県立学校環境充実応援プロジェクト～

寄附金で学校用地を第2グラウンドとして整備し、
生徒がいきいきと活動できる環境を作ります。

- ご支援いただいた方には、**税金の控除等**があります。
- ご寄附の手続きに関しましては、明石高校ホームページをご覧ください。
又、明石高校の事務室へ電話でお尋ね下さい。

兵庫県立明石高等学校 ☎ 078-911-4376 FAX 078-911-4377
〒673-8585 兵庫県明石市荷山町1744 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~akashi-hs/>

編集後記

今刊26号の表紙は校門と制服の今と昔。いつもとは雰囲気を変えて水彩画としました。イラストの制作をお願いした安藤さんは中学18回卒業で現在90歳になられますが、心身とも大変お元気で、絵画の個展を開かれたり、絵画以外にもテノール歌手として独唱会を開催されるなど活躍されています。いずれも60歳を超えてから始められたことですが、もはや趣味の領域を超えプロのレベルで活躍されておられ、年齢を超越した探求心には舌を巻かされます。

このたび本誌の表紙のために描いていた水彩画は明石中学校創立当時の校門風景で、現在の正門より少し南に位置していたことです。その後1961年ごろに本館前の庭園が整備された際に正門は中部講堂の前に移転されました。更に1990年ごろに創立時の位置に近い現在の場所に移されました。

制服については、創立時は高級紺色サージ生地を使った折り襟で、1・2年は半ズボン、3年生以上が長ズボンとゲートル巻きでした。当時主流を占めていたカーキ色の軍服風の詰襟とは一線を画し世間の注目を引いたことですが、この制服には新生明石中学に対する山内佐太郎校長の強い思い入れがあったものと偲ばれます。中学から高校への変換点で制服も一新され、男子はより一般的な黒の詰襟、女子は紺色の箱ひだスカートにベストのスタイルが46年間続きました。そして1992年にはブレザー型で上着は紺、ズボン・スカートはグレーの斬新なものになり、さらに約10年後には同じくブレザー型でネクタイとリボンを加え上下の色がブラウン系に変更されて現在に至っています。

正門や校舎や制服は時代とともに大きく変わってきましたが、在学生や卒業生の心の内には母校に対する誇りと愛校心がずっと育まれていることでしょう。(卓)



初代 2回生～ 男子 黒の詰襟 女子 紺の箱ひだスカートにベスト



二代目 46回生～ 男女とも、紺のブレザー型にグレーのズボン・スカート

なつかしの
明高歴代制服
写真館



三代目 58回生～現在 男女とも、ブラウンのブレザー型
男子はネクタイ、女子はリボン



昔も

発行：県立明石中学校
県立明石高等学校
同窓会（自彊会）
明石市荷山町1744番地
078 (913) 6554
印刷：（有）木下ブンセイ出版印刷